

地域学校協働連携NEWS

こちらのQRコードから、閲覧・ダウンロードができます→



地域連携担当教職員等南会津地区研修会

5月29日(木)、域内小中高校の地域連携担当教職員及び各町村教育委員会等の関係者を対象に開催しました。当日は23名の参加者が集い、「講義」「事例紹介」及び「熟議」をとおして学びを深めました。

講義 「学校と地域の連携・協働を効果的に進めていくために」

昨年3月に教育事務所で作成した「地域連携担当教職員のためのサポートナビ南会津版」を基に、学校と地域の連携・協働の意義と効果、組織体制づくり、進め方等についてのポイントを学びました。

地域連携担当教職員が中心となり、職員全体で地域学校協働活動についての共通認識を図り、各学校・地域に合った形での地域連携を進めていただきたいと思います。

- 主査の立場から進めている実践が素晴らしいと感じた。教員とは違った視点で地域連携について考え活動していることが大変参考になった。
- 改めて学校組織全体で地域連携を進めていくことの大切さを学んだ。役割の明確化をすることが大切だと分かった。
- すぐに行動に移すことは難しくても、まずはお互いの声を聴くことが1歩になるという話を聞き、その通りだと感じた。何ができるか考えていきたい。

<参加者の感想>

- 何のための連携かを確認しながら進めていくことの大切さを確認できた。
- 学校・地域それぞれが担える部分を明確にして、お互いにWinWinな関係になれるようにしていく必要があるということがわかった。
- 分担という言葉が印象に残った。学校がもっと地域の中に入っていくために、地域にお任せできることを探っていく必要性を感じた。

事例紹介

「地域連携、みんなでやってみっぺ!」

只見町立明和小学校の地域連携担当教職員である舟木希主査に実践紹介をしていただきました。

主査という立場を生かした地域と学校の橋渡し、組織全体で取り組むための地域連携担当教職員の役割など、多くの示唆をいただきました。

また、舟木主査の「みんなの Well-Being」を目指した前向きな姿、実践紹介は「明日から実践してみっぺ!」という参加者の意欲につながりました。

熟議 「自校・自身の実践と課題、今後の実践に向けて」

「熟議」とは、多くの当事者によって「熟慮」と「議論」を重ねながら課題解決を目指す対話のことです。

話し合いを活性化させるためのツールとしてカードを使用しながら、各地域に分かれて熟議を行いました。ビジョンの決定、課題等の見極め、実践の決定という段階を経ながら、多角的・多面的な視点で話し合いを行うことで、各地域の課題や取り組むべきことを明らかにすることができました。

- 町の未来に不安はあるが、自分は何もできていない。何をすべきなのか考えるきっかけとなった。
- 様々な立場、所属の方と課題解決に向けて話し合うことができたのが良い機会になった。各々の問題意識を共有できたのが収穫となった。
- 町内での熟議ということで、共通認識をもった話し合いができました。

地域学校協働活動の充実のためには、地域連携担当教職員を中心としながら、学校全体、地域全体でどのような子供を育てたいのかという共通認識をもち、それぞれの立場でできることに取り組んでいく必要があります。活動の充実のため、皆様のご協力をお願いいたします。

